

薫陶を受けた者たちとの研究のダイアローグ 思考の道筋を照らす強烈な求心力と訓導

佐野みどり先生古稀記念論集刊行会編

造形の ポエティカ

The Poetics of Form: New Horizons in Japanese Art History



日本美術史を巡る
新たな地平

かつて講筵に列した
元学生有志の論考を中心に、
国内外から寄せられた四十三編を収載。

佐野みどり先生は、2021年2月17日、めでたく古稀を迎えられた。本書は、先生の古稀をことほぎ、長きにわたる先生の学恩に報いるために献呈する記念論文集である。

企画するにあたり、佐野先生のご研究に呼応する形で各人が論考を寄せる、いわば先生と寄稿者による学術的キャッチボールのような形式をとることを目指した。各論考を通して、先生の柔軟かつ巨視的な研究視点、そして作品へと向かう分析態度を改めて感じていただければ幸甚である。（「序」より）

A5判上製カバー装 口絵8頁 本文1140頁

定価18,700円(税込)

ISBN978-4-909181-30-5 C3071



青簡舎



●目次 序

I 思想と造形

インド文化圏における聖なる場(神域)の条件 —— クメール遺跡を中心に ● 朴亨國
 元時代後期水陸画の一例 —— 茨城県桜川市・天台宗月山寺所蔵「伝十仙図」について ● 藤元 裕二
 足利・饒阿寺不動明王坐像をめぐる思想と造形 —— 院政期における不動明王像と女性の信仰 ● 大澤 慶子
 ハーバード大学美術館蔵「聖徳太子二歳立像」に秘められた意味 ● レイチェル・サンダース
 兵庫・極楽寺「六道絵」の構想 —— 説話図像を中心に ● 石川 温子
 中世日本の地獄絵における救済 —— イメージ、テキスト、儀礼を中心に ● ミリアム・チューシッド
 遊行上人縁起絵における熊野権現神託場面(熊野成道)について ● 本多 康子
 別府市長泉寺所蔵「長泉寺乳薬師縁起曼荼羅図」について —— 近代掛幅縁起絵についての一考察 ● 高宮 なつ美



II 物語と絵画

徳川・五島本「源氏物語絵巻」 「鈴虫」第二段を読む ● 川名 淳子
 土佐光則における古典の再結晶化 —— 源氏絵図様の再発掘 ● 菊地 絢子
 ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン(RISD)美術館の
 「白描源氏物語画帖」について ● ワイイー・チョン
 メトロポリタン美術館所蔵「保元平治合戦図屏風」再考
 ——『保元物語』『平治物語』の絵画化と図様の継承 ● 柳澤 恵理子
 「釈迦堂縁起絵巻」異国場面の描写をめぐる —— 画囊としての絵巻 ● 土谷 真紀
 狩野益信筆「堀川夜討絵巻」にみる江戸狩野派の物語絵巻制作 ● 薄田 大輔
 浮世絵における「大織冠」の絵画化について ● 谷嶋 美和乃
 展覧会の語り —— 「霊廟」からの蘇生を目指して ● 廣海 伸彦

III フレームと景観

フレームとパラテキスト —— 『源氏系図』と血脈の物語 ● メリッサ・マコーミック
 「道成寺縁起」と在地性 —— 門前風景をめぐる ● 上野 友愛
 狩野元信印「富士曼荼羅図」の構造と機能 ● 高橋 真作
 交錯するフレーム —— 「清水寺参詣曼荼羅」における五条橋の役割 ● タリア・アンドレイ
 「珍皇寺参詣曼荼羅」の制作背景 ● 久野 華歩
 美術史を超えて —— ヴァナキュラー・マッピングとしての日本近世風景版画 ● エヴァ・マホトカ
 徳川から明治へ —— 近世・近代日本の心性に屹立する富士山 ● 松島 仁
 簾をかかげる清少納言図の確立と垣間見の視点 —— 土佐光起の以前以後 ● 永井 久美子

IV 古典知と創造

日本美術史における批評としての古典主義 ● クリストファー・カーギー
 東寺本「弘法大師行状絵巻」の披覧記事 ● 藤原 重雄
 絵巻をうつす —— 「松崎天神縁起絵巻写」小考 ● 岡本 麻美
 異文化におけるイコノロジーの変容 —— 室町水墨驚図を中心として ● 呉 曉瑾
 狩野光信様式の達成と永徳画との関わりについて ● 三宅 秀和
 墨と金の摩擦
 —— フリーア美術館所蔵の雲谷等益筆「瀟湘八景図屏風」について ● フランク・フェルテンズ
 蕪村と呉春の「桃源図」—— 受け継がれるもの
 —— 呉春「武陵桃源図屏風」(大倉集古館蔵)を中心に ● 田中 知佐子
 酒井抱一の古典歌仙絵の受容
 —— メトロポリタン美術館蔵 酒井抱一筆「三十六歌仙図」の解析を通して ● 関 彩与子
 再考 山本芳翠筆《浦島》 —— 帰郷する群像表現を起点として ● 椎野 晃史
 岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》をめぐる断想 ● 田中 純一郎
 流派はイデオロギーを超えるか
 —— 森狙仙の猿と川端玉章筆「群猿之図」を中心に ● カタリーナ・ローデ
 安田靫彦における古陶磁愛玩 —— 岡田美術館蔵「加彩楽舞俑」を一例として ● 佐藤 有沙



V かざりの文化

莫高窟北朝期の装飾文様 —— 忍冬文の源流と類型 ● 趙 声良 張 春佳
 平安後期の美術にみられる高麗の浄土の造形について —— 十一世紀の高麗鐘の飛天との関係を中心に ● 金 寅圭
 東京藝術大学 銅造菩薩立像に関する一考察 —— その装飾性をめぐって ● 海老澤 ありは
 マイセン製柿右衛門様式磁器写し物にみる異文化受容の特質 ● 櫻庭 美咲
 明治三十年代京都の図案における津田青楓と小美術会 ● 大平 奈緒子
 ジョアン・ミロとバルセロナの民芸サークル —— 一九五〇年日本民芸展を起点として ● 中村祐美子
 石内都の写真と「かざり」 ● 富澤 治子